

ス、(3)GPS 可降水量データベース、を "http://aqua.cr.chiba-u.ac.jp/gdes/index.html" で公開した。

また、衛星データ画像、地図情報のブラウザ画像情報もホームページを通じて公開しており、様々な分野の複合的研究を意図したデータベースシステムを長期にわたって維持していく予定である。1999年度は成果の一部を UNESCO/IHP の AP-FRIEND プロジェクトのシンポジウムにおいて発表した。

Kondoh, A., Nakayama, D., Agung, B. D. and Eleonora, L. (1999): Geographic Database to Describe Regional Characteristics. Proc. of International Symposium on Floods and Droughts, 391-395.

### 1.3.3 アジア・太平洋地域における比較水文学的研究（継続）

(近藤昭彦, アグン ブディ ハルト, エレオノラ ルンツヌウ)

地理情報データベースの応用研究として、比較水文学を指向したアジア・太平洋地域の水文データベースを作成した。1999年度は既存のラスター情報を収集し、主題図化すると共に、気象情報、河川情報を収集し、水文学的特性を表す二次データを作成した。成果はホームページ (URL <http://aqua.cr.chiba-u.ac.jp/>) において順次公開しつつある。また、成果の一部を UNESCO/IHP 主催のワークショップ (南京, 10月) において発表した。

Kondoh, A., Nakayama, D., Agung, B. D. and Eleonora, L. (1999): Geographic Database to Describe Regional Characteristics. Proc. of International Symposium on Floods and Droughts, 391-395.

### 1.3.4 中国華北平原の水循環に関する日中共同研究（継続）

(近藤昭彦, 新藤静夫\*, 唐 常源\*\*, 佐倉保夫\*\*, 田中 正\*\*\*, 嶋田 純\*\*\*\*, 宋 献方\*\*\*\*\*・芝野博文\*\*\*\*\*)

\*中国科学院名誉教授, 千葉大学名誉教授, \*\*千葉大学, \*\*\*筑波大学, \*\*\*\*熊本大学, \*\*\*\*\*農水省農業環境技術研究所, \*\*\*\*\*東京大学

中国の華北平原、特に黄河の北側の河北省における水問題は周知の事実であるが、この問題解決のためには、的確な現状認識に基づいた水管理方式の考案が不可欠である。1998年6月に河北省太行山地山地生態農業研究所でキックオフミーティングとしてミニシンポジウムを行い、華北平原の水循環に関わる総合的な研究がスタートした。

研究は華北平原の水循環に関する総合的研究として進めているが、CEReS は衛星による植生・水文モニタリング、地表面フラックスを担当している。1999年度は楽城生態農業試験所の圃場におけるフラックス観測の強化を行った。また、昨年度までに手法は確立した RS による広域乾湿分布推定についてはオペレーショナルな適用を目指して、CEReS 受信データの処理を行っている。2000年度から外部資金の導入により観測の強化を行う予定であり、2002年を目標に衛星データ、地理情報を融合した総合的水循環研究を進める予定である。なお、これまでの成果の一部を下記にまとめた。

Kondoh, A and Oyamada, Y. (2000): Monitoring surface moisture and vegetation status by NOAA and GMS over North China Plain. Advances in Space Research, 26(7), 1055-1058.